

かかりつけ医等の定着促進に関する市民啓発等のあり方について 前回の懇談会における主な意見

1 市民の意識について

- かかりつけ医等を持った方がよいとわかっているが、自分は別だとして、病院を選んでいるような大病院志向の患者が多い。また、病院は多くの診療科があるので1か所で済むというメリットを感じて、病院をかかりつけ医だと思っている方も多い。
- 複数診療科を受診している方は、逆紹介が進みにくいと感じる。
- 生活習慣病等において、病院では3か月分などの長期投与を行う場合があるが、診療所では月に1回の受診が多いため、病院に戻ってこられる方もいる。
- 自分で選んで病院を受診しているからと、選定療養費を払ってでも受診される方も多くみられる。選定療養費の意図や医療機関の役割分担についての情報提供も必要であると思う。
- かかりつけ医等定着させるためには、かかりつけ医等を持つことが必要な現状やメリットを伝えたり、感じてもらうことが大切ではないか。
- 市民に対して、かかりつけ医等を選ぶ上で役立つ情報（診療所の診療科目や専門分野等）の提供も必要ではないか。
- 門前薬局が多く、門前薬局で薬をもらわないといけないというイメージがある。

2 病院と診療所との連携について

- 紹介、逆紹介を円滑に行うためには、各病院や診療所の専門分野等の医療機能情報を共有することが大切。
- かかりつけ医機能を発揮していただくために、患者の急変時に入院を受け入れるなど、病院のバックアップなどの病診連携が必要ではないか。